

越山若水

2021.9.9

福井県指定郷土工芸品の一つに
 三国提灯ちゅうとうがある。「三国提灯い
 とや」が一手に伝統を受け継ぐ。
 坂井市三国町でも、旧森田銀行本
 店などレトロな建物が多い町並み
 に溶け込み、店頭では目にも鮮やかな三国提
 灯が揺れている▼「いとや」は、2代目の畑
 峰雄さんと3代目で娘さんの小島まりやさん
 がその主な担い手である。畑さんは初代から
 こんな逸話を聞いた。今日でこそ閑静な本店
 (南本町2)の前通りには、ボンネットバス
 が走っており、三国の銀座通りだった。提
 灯店は3軒あったが、昭和末ごろには2軒が
 姿を消したとか▼三国提灯といえば、三国祭
 を彩る、祭り提灯に代表される。三国地区の
 家々が三国祭を前に、軒先に飾る風物詩であ
 る。町内ごとに趣向を凝らした形、デザイン
 があり町内の団結力を示し「夜逃げしても提
 灯は置いていけ」との言い伝えが残るほど大
 切にされている▼今は神社などの高張提灯作
 りがピークで型組みから絵付けなど一貫して
 手作業で行う。コロナ下、驚きもあった。フ
 ランスから注文が入り小島さんが280個を
 制作。提灯は海を渡って老舗百貨店に展示さ
 れた。「三国提灯の可能性を体験できた」と
 手応えを感じる▼本店は作業場で来店者は見
 学できる。小島さんは自宅に飾れる提灯を開
 発して、その売り場と作業場との複合店を構
 想する。三国提灯の新時代を築いてほしい。